

第2回静岡県リカレント教育検討会議 委員発言要旨

令和3年11月15日

○議題「本県の産業人材に求められる知識・スキル」

委員名	発言要旨
秋山委員 (静岡県経営者協会)	<ul style="list-style-type: none"> 既に教育をしっかりやっている企業にはリカレント教育というテーマは必要とされないのではないか。 将来的にAIに取って代わられる認知能力ではなく、非認知能力を伸ばすのがよい。
石井委員 (放送大学)	<ul style="list-style-type: none"> 非認知能力で言えば、構想力や新しい商品を生み出して切り拓いていくような能力が求められる。 会社が必要とする技術は社内で引き継がれていくので、大学が非認知能力を伸ばすことが重要である。
岩崎委員 (静岡県立大学)	<ul style="list-style-type: none"> 人のアタマ（理性・機能）に訴える力だけでなく、人のココロ（感性・情緒）に訴える力が求められている。知識の提供だけでなく、発想力や創造力を高める研修も重要になっている。
窪田委員 (静岡県商工会連合会)	<ul style="list-style-type: none"> 人間力というか、思考力・判断力・コミュニケーション力・構想力を大学で勉強できるのはありがたい。 県内の企業が大学、高専や高校で学び直しができるシステムになれば、学生も県内企業に就職したいという気持ちになると思う。
塩尻委員 (静岡大学)	<ul style="list-style-type: none"> 人間力を育成するリカレント教育は大学には難しいが、現状から課題を見つけ、それを解決する術を探るような教育は可能である。 ICTやAIの時代にはデザイン力が非常に重要であり、伝えたいことをしっかりと伝えるということが、よいビジネスをやる上でこれまで以上に重要になる。
田中委員 (静岡県中小企業団体中央会)	<ul style="list-style-type: none"> 会社で研修のカリキュラムを作成した際の精度や正確性の検証が重要である。
中村委員 (静岡県商工会議所連合会)	<ul style="list-style-type: none"> 従業員自らが能力や専門性を高める必要性を十分に理解して取り組むことが、リカレント教育の要点になる。 県の会議や新ビジョンを見ると、求められる人材像は「中長期的に本県の産業の担い手となって急激な社会変化に対応できる人材」である。 (具体的には、ICTやデジタル等の最先端分野の専門的な知識を有する人材)
牧野委員 (静岡産業大学)	<ul style="list-style-type: none"> 公が実施するリカレント教育の対象として、次のものが重要である。 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育が体系化されていない企業における教育 ② 多様性やインクルージョン ③ AI等による仕事の効率化で残った仕事への対応（ストレスへの対応）
山本委員 (ほのくに地域・大学コンソーシアム)	<ul style="list-style-type: none"> 単独の大学ではなく、複数の大学が集まることにより魅力のあるプログラムが提供できるならば、大学コンソーシアムとして貢献したい。